

健診事業のあり方研究会

2023年度活動計画（2022活動結果）

研究会の目的

健診項目、受診勧奨、事後フォロー等のあり方について、あるべき姿を追求し、各健保の今後の取組みに寄与する。

2022年度の目標

～がん検診～

これまでの取組を深掘りして、がん検診の受診案内から要精密検査者の把握、そして二次検診受診勧奨とその結果の把握まで、がん検診事業の一連の流れについて基本的なポイントを整理する。

○メンバー

- ・ 25健保30名(2023年3月現在) (内、常務理事5名、医療専門職4名)
- ・ アドバイザー 高橋宏和 先生 (国立がん研究センター)

○研究会形式

- ・ Web会議 (Teams)
- ・ 月ごとに小テーマを設定
 - <全 体> 事例発表 OR 講 演
 - <Group> 自健保の状態を説明 意見・情報の交換
(事前整理のためのフォーマット準備)
 - <全 体> Groupのトピックス共有

○運営委員会

- ・ 研究会終了直後に開催 . . . 反省&次回内容
- ・ 詳細はメールでやり取り (メール委員会)

<活動内容>

	全 体（事例発表、ご講演）	Group討議（情報交換）
5 月	○2022年度 活動計画案 紹介 ・「がん検診」に継続して取組み ・精度管理の深掘り ・受診案内から二次受診結果の把握まで ○自己紹介	
6 月	○「 精度管理マップ 」の新バージョン作成に向けて ・作成の意図 ・新規作成の依頼（実態調査）	○「 精度管理マップ 」のフリーディスカッション （理解を深める）
7 月	○ ご講演 ： 高橋先生 「 欧州におけるがん検診の考え方 」 基本的ながん検診の考え方を、欧州の例を基に 幅広くご紹介 ○「精度管理マップ」第1報 （先生からコメント）	

精度管理のマップ

※横軸を各データ、縦軸をそのデータを基に算出した率とした精度管理の実施状況を示した表

がん発見率

率

精検受診率

要精検率

受診率

青の点線のルートに沿って精度管理の質が向上していくことを想定。下記のように、対象者数データまでしか把握していないのに、精検受診率を把握している状況は考えにくい。

【G→Hに移行できない原因】
レセプトデータ等から、精検受診者数を抽出する仕組みが確立できていない？

【E→Fに移行できない原因】
・受診結果を受領できない？
・受診結果から要精検者数を抽出する仕組みが確立できていない？

【C→Dに移行できない原因】
受診率の分母となる対象者数を基幹システム等から抽出できていない？

自組合より先に進んでいる組合の取り組みを知ることで、改善のヒントになる（かも）。

データ

把握していない

対象者数

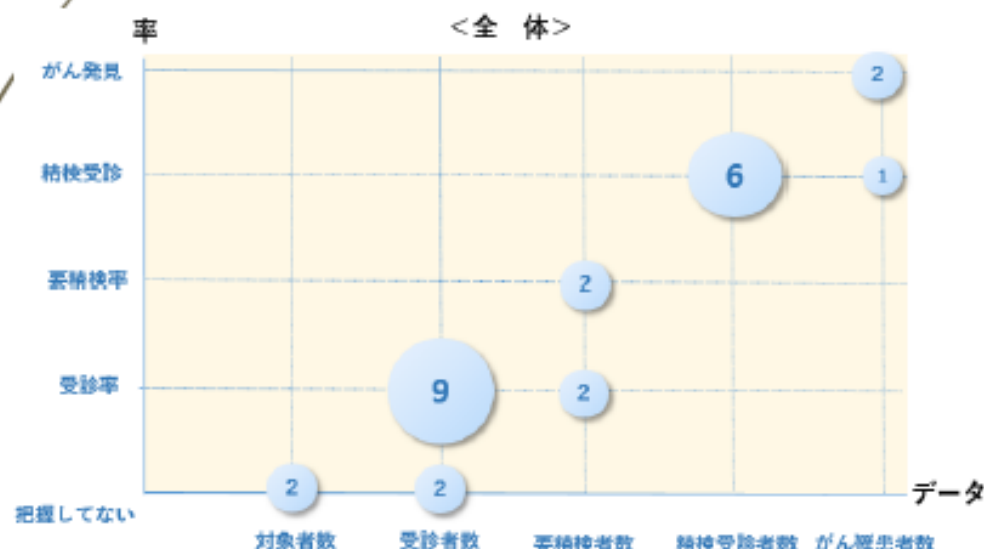
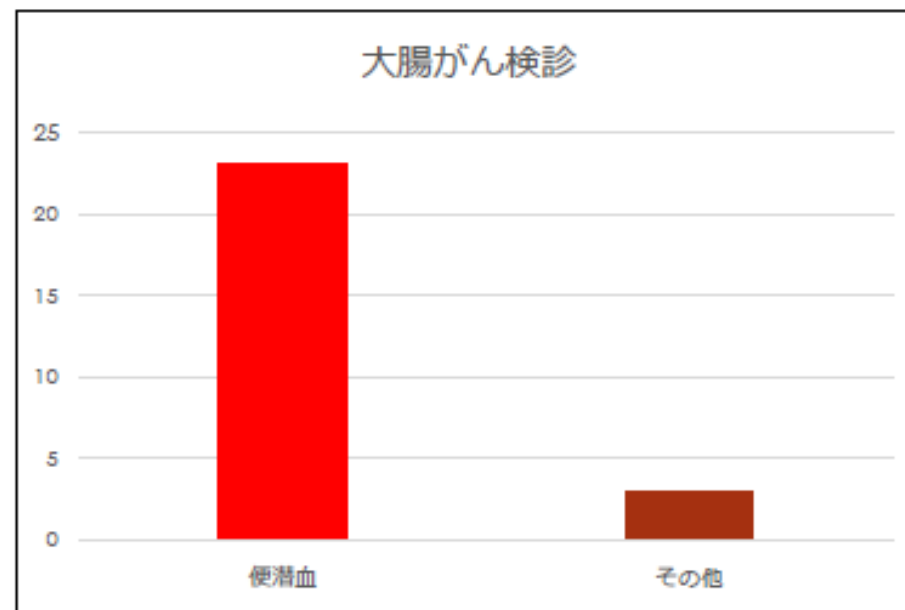
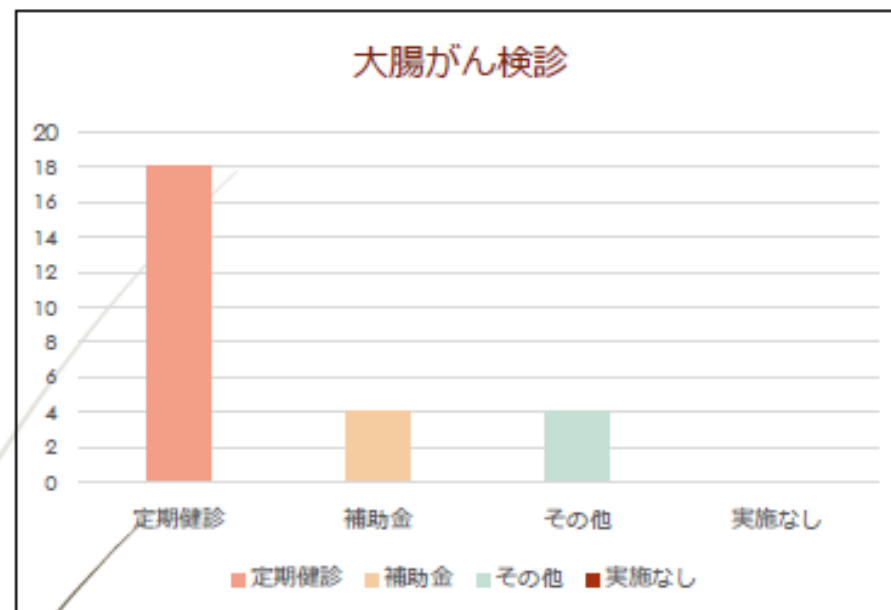
受診者数

要精検者数

精検
受診者数

がん
罹患患者数

大腸がん検診



◆受診方法

定期健診が18組合と最も多く、補助金による実施が4組合、その他による実施が4組合であった。

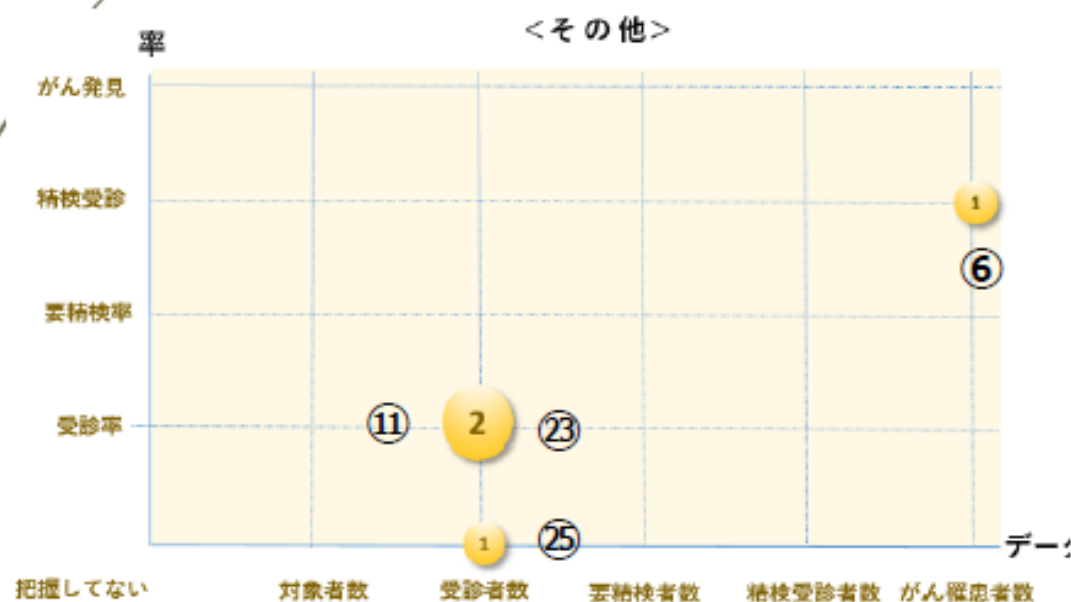
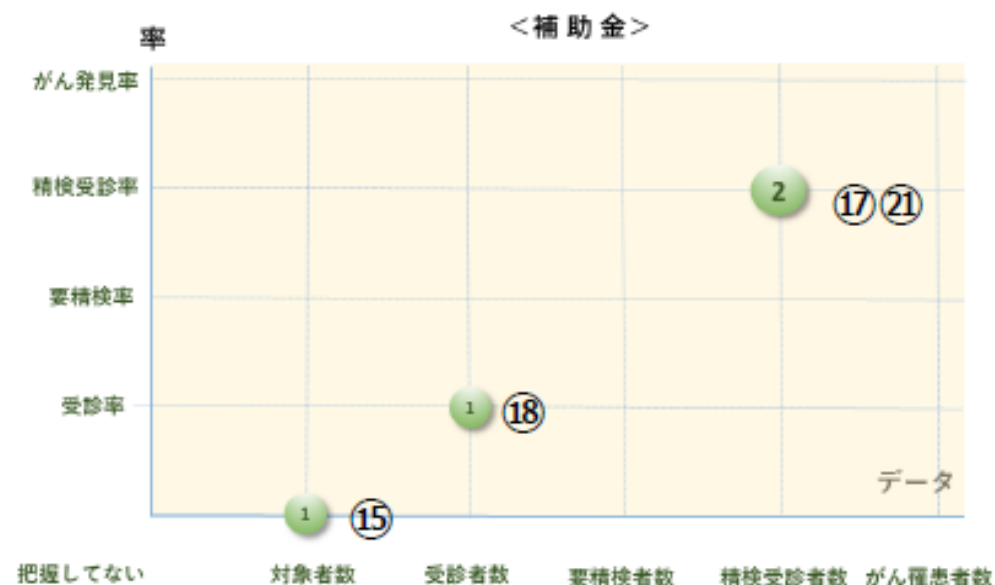
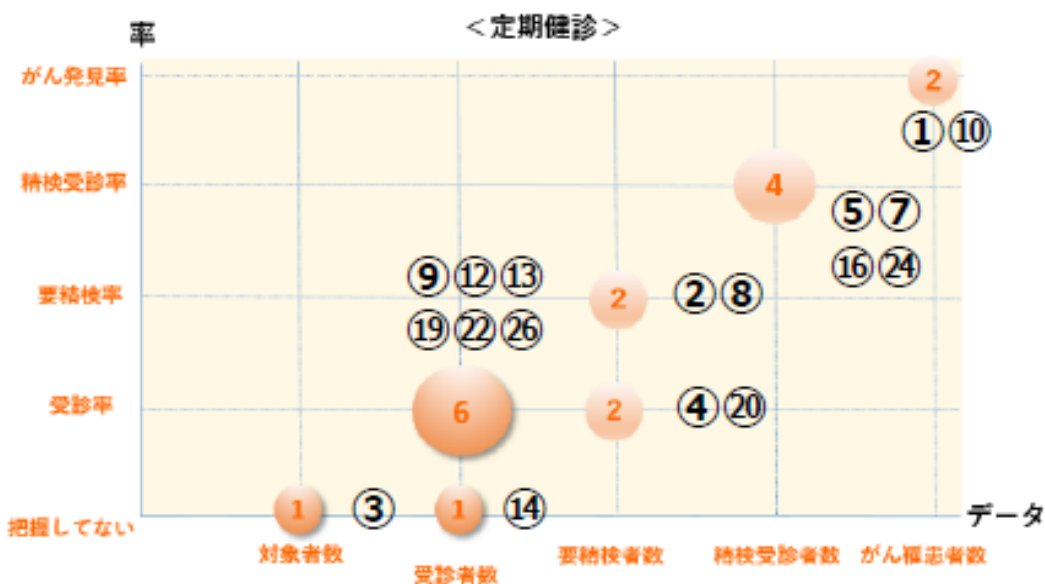
◆検診方法

・ほぼ全ての組合が便潜血による方法を採用していた。

◆データ、率の把握（全体）

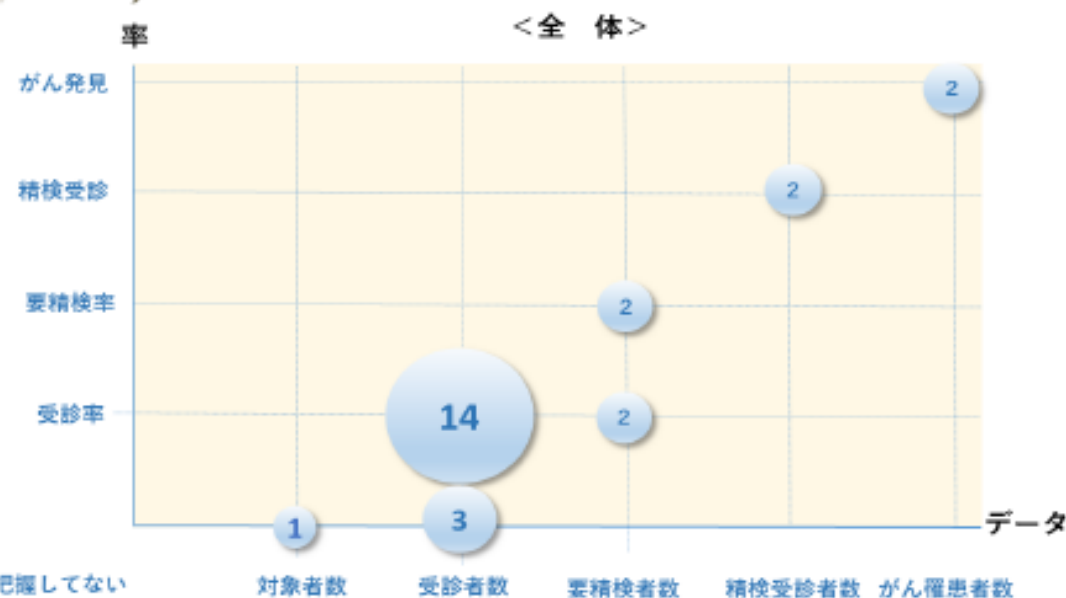
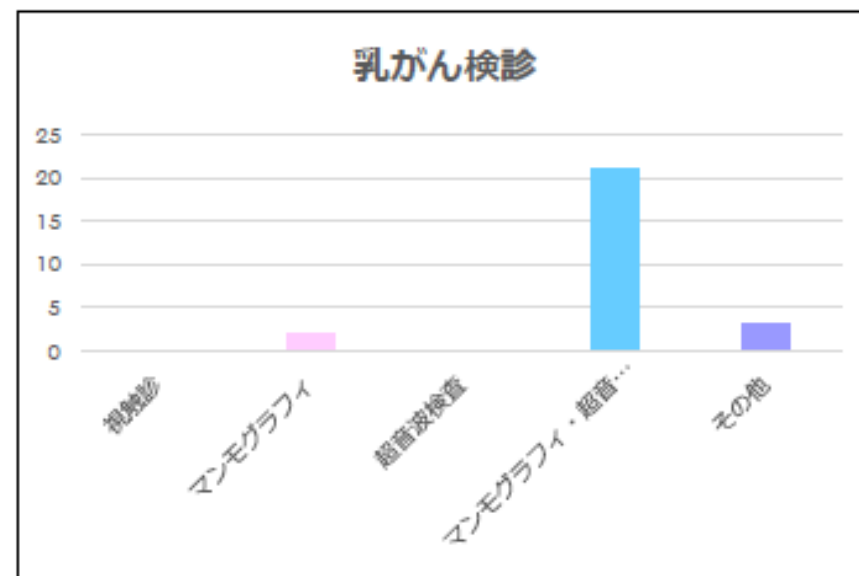
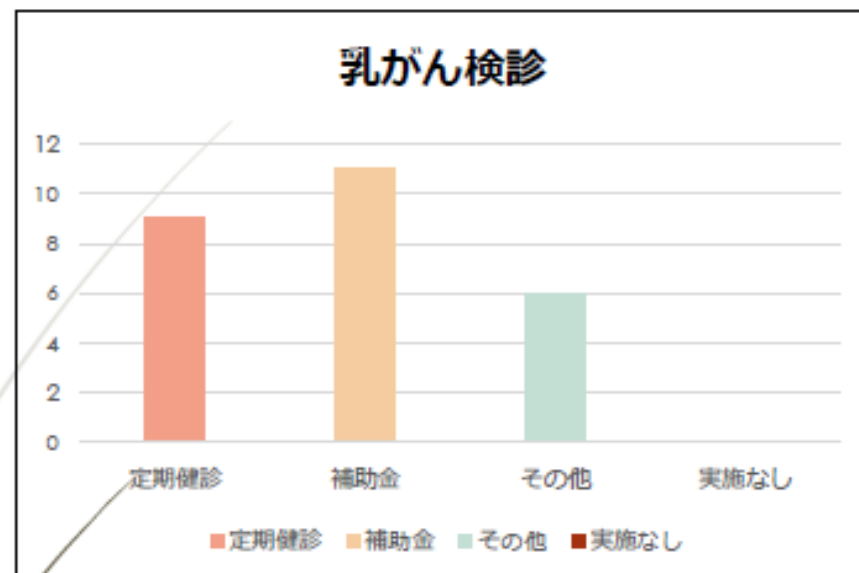
「受診者数・受診率」を把握しているが9組合と最も多い。「要精検率」以上は13組合と最多で最も精度管理が進んでいる。「受診者数・把握できていない」は4組合。

大腸がん検診



- ◆定期健診
「受診者数・受診率」が16組合「受診者数、把握していない」が2組合
※実施方法が容易、単価が安い、結果判定が分かりやすい等から最も精度管理が進んでいると考えられる。
- ◆補助金
実施方法確認（郵送）

乳がん検診



- ◆受診方法
補助金により実施している11組合と最も多く、次いで定期健診が9組合、その他が6組合の順であった。
- ◆検診方法
マンモグラフィと超音波検査の併用が21組合と最も多く、マンモのみは2組合は、その他が3組合であった。
- ◆データ、率の把握（全体）
「受診者数・受診率」を把握しているが14組合と最も多い。「要精検率」以上は6組合。「受診者数・把握できていない」は4組合あった。

	全 体（事例発表、ご講演）	Group討議(情報交換)
9 月	○「精度管理マップ」第2報	○婦人科健診(補助金)を対象に ・受診率 ・受診案内方法 ・ポピュレーションアプローチ方法 の実態と問題点 について
10 月	○事例発表：資生堂健保 岡さん 「健康診断事業の現状」 (9月研究会で好事例健保となった)	○「事業主担当部署とのコミュニケーション」について ・補助金健診(任意)を定期健診(半強制)に組込むためには？ ・連絡会議等の実施方法は？
11 月	○ご講演：健診標準フォーマット管理事務局 「健診標準フォーマットの普及に向けて」 ～保険者による健診標準化の効果～	

	全 体（事例発表、ご講演）	Group討議(情報交換)
12月	○事例発表：野村證券健保 岡田さん ～契約健診機関の「がん検診精度管理」実態把握と課題～ (研究結果表)	○がん検診の精度管理の実現に向けて ・検診機関が実施していること、問題点 ・健保が検診機関等に対して管理上で実施していること、問題点 ・研究会など複数健保で共同で実施すること
1月	○事例発表：東芝健保 植村さん 「受診ガイド」の紹介	○がん検診の受診案内の実態 ・健診・検診の案内方法、工夫している点 ・マニュアル記載の、検診のデメリット、対象年齢、受診間隔などを伝えているか？
3月	○「精度管理マップ」の完成版を共有 ○1年間の活動結果に対する高橋先生コメント ○ご講演：高橋先生 「被用者保険におけるがん検診の実施状況」	○活動を振り返って ・最も印象に残ったこと ・研究会で得たことで、自健保において今年度新たに取り組んだこと、来年度に取り組みたいこと ○来年度の研究会の希望テーマ

<振り返り> ～メンバーの声～

～良かった点～

1. 精度管理マップを継続して作成
(自健保の位置づけや参考になる健保の存在が明確になった)
2. 研究会で得た情報を自健保活動に活かしている
(メリット・デメリットの周知、要精密検査者の把握・受診勧奨、
結果をアンケートで把握)
3. 少人数でのGroup討議は話しやすい、事前課題シートにより自健保状況が整理できた。

～意見、要望～

1. 欠席者への情報提供 (講師による講義は動画配信した。毎月の研究会内容は議事録のみ)
2. ハイブリッド開催、リアル開催
3. 精度管理マップの同じ立ち位置の健保同士でのディスカッション

< 2023年度活動は >

- 2019年 「職域におけるがん検診に関する**マニュアル**」の理解
2020年 がん検診のメリットだけでなく、**デメリットを伝える**
2021年 **受診者情報**を管理して、**要精密検査者**等を把握する
* **精度管理マップ** の作成
2022年 がん検診の**一連の流れ**を整理
(受診案内から要精密検査者の把握、二次検診受診勧奨の重要性)
* **精度管理マップ** の再作成 と活用

2023年案 がん検診推進活動の進化・深化

○精度管理の向上策

- ・プロセス指標の設定
- ・事業主とのデータの共有・コラボ

○要精密検査者の**受診勧奨**策

<従 来> 受診機会の提供をメインとした福利厚生的ながん検診事業

⇒ <**ありたい姿**> 事業プロセスを管理し**対象者の状況を把握**していく
がん検診事業

END